

早生多収で良食味イチゴ新品種「鹿児島6号」の育成

開花は「さがほのか」並に早く多収で、厳寒期でも糖度が高く、良食味のイチゴ新品種「鹿児島6号」を育成した。

背景・目的

- ・本県の主要品種である「さがほのか」は、早生多収であるが、冬期の食味低下が課題となっている
- ・“早生多収”の特性を活かしつつ、で冬期の食味低下が少なく安定した“良食味”を目標として品種を育成

成果の内容



育成経過

・「かおり野」を母親, 「紅ほっぺ」を父親として交配

生育特性

- ・「さがほのか」と比べて葉柄長と葉身長は長く、葉幅は広く、草勢が強い
- ・果梗枝も長い

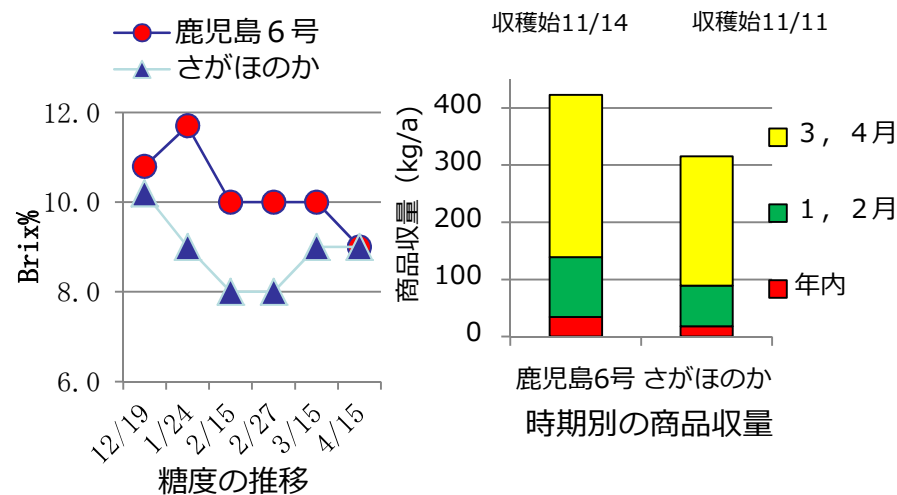


果実特性

- ・「さがほのか」と比べて栽培期間を通じて糖度が高く、果実の色は肩部分まで赤く、色むらのない完全着色タイプ
- ・輸送性については、やや劣る

導入メリット

糖度が高く食味が良いため、差別化販売による単価向上, 早期多収による所得向上が期待される



草勢が強く果梗枝も長いことから、電照やジベレリン処理が不要なため省力化も期待される

期待される効果

県オリジナル品種の育成で、県内限定生産が可能となり、他県と差別化等による本県のイチゴ生産の有利性を強化できる

県内全域(長距離輸送を除く)